

別表第2
(表面)

鉄骨造の建物の耐力度調査票

IV 学校種別
V 整理番号

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間				平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日				III 結果 点数			
					調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	Ⓐ 構造耐力		耐力度	Ⓐ×Ⓑ×Ⓒ				
					予備調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名	Ⓑ 健全度							
II 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積				建物の経過年数				被災歴		補修歴		
				一階面積	建築年月	年	長寿命化年月	年	種類	被災年	内容	補修年	点		Ⓒ 立地条件	
				延べ面積	経過年数	年	経過年数	年					点		点	

A 構造耐力	階	方向	Qu/ΣW	F	Ai	Eoi	Isi	部材	鉛直荷重時			暴風時		応力比 f/σ ≤ 1.0		1981年以前の場合	α 評点	評点合計											
									長期G+P		積雪時	許容応力 f	作用応力 σ	許容応力 f	作用応力 σ				鉛直荷重時	暴風時									
									許容応力 f	作用応力 σ	作用応力 σ																		
									桁行方向 X	はり	中央											B α = min(a,1) × min(b,1)	f α = min(B α, S α)	Ⓐ α = 50 × ((min(Is,0.7) + 1.3) × f α)	Ⓐ = Ⓐ				
											両端																		
											平均																		
										柱	中央															S α = min(c,1) × min(d,1)			Ⓐ
											両端																		
											平均																		
									筋かい	中央											a 1.00 b 1.00								
両端																													
平均																													
二重枠内の最小値								c 1.00 d 1.00																					

B 健全度	① 経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t ₂	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	評点合計		
		年	T=(40-t)/40 =	年	T=(30-t ₂)/40 =	Ⓐ	Ⓐ (Ⓐ×25) 点		
	② 筋かいのたわみ L	桁行方向 有 無	張間方向 有 無	屋根面 有 無	L=	最低値 L	評点	Ⓐ = (Ⓐ+Ⓐ)+Ⓐ +Ⓐ+Ⓐ+Ⓐ) 点	
	③ 鉄骨腐食度 F	部材区分	断面欠損を伴う腐食 無	断面欠損を伴う腐食 (10%以上の減厚)	断面を貫通する腐食	最低値 F	評点	Ⓐ (Ⓐ×10) 点	
		主要構造材	1.0	0.5	0.0	F=			
		非主要構造材	1.0	0.5	0.0				
	④ 非構造部材等の危険度 W	危険な要因1(0.8)	危険な要因2(0.6)	危険な要因3(0.5)	危険な要因無し(1.0)	W=	評点	Ⓐ (Ⓐ×30) 点	
	⑤ 架構剛性性能 θ	層間変位 δ	階高h	θ = δ/h	θの最大値	判別式	評点	Ⓐ (Ⓐ×15) 点	
	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	1/200 ≤ θ < 1/120 直線補間				
	1/120 ≤ θ	0.5					Ⓑ = Ⓐ × min(Ⓐ, Ⓐ)		
⑥ 不同沈下量 φ	相対沈下量 ε	スパンL	φ = ε/L	φの最大値	判別式	評点	Ⓐ (Ⓐ×10) 点		
	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	φ ≤ 1/500 1.0	Ⓐ			
					1/500 < φ < 1/120 直線補間				
					1/120 ≤ φ 0.5				
⑦ 火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積 S ₀	被災率 S = S _t /S ₀	判別式	評点
	被災床面積	S ₁	S ₂	S ₃	S ₄			S=0 1.0	Ⓐ
	評価後被災面積 S _t	S _t = S ₁ + S ₂ × 0.75 + S ₃ × 0.5 + S ₄ × 0.25 =						0 < S < 1 直線補間	
								S=1 0.5	
⑧ 地震等による被災歴 E	被災歴なし 被災度区分軽微	被災度区分小破 補修工事済み	被災度区分中破 補修工事済み	被災度区分大破 補修工事済み	評価				評点
	1.0	0.95	0.9	0.8					Ⓐ

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評価	評点
	四種地域 1.0	一種地盤 1.0	平坦地 1.0	その他地域 1.0	海岸から8kmを超える 1.0	C = (①+②+③+④+⑤) / 5	Ⓒ
	三種地域 0.9	二種地盤 0.9	傾斜地(3m未満) 0.9	二級積雪寒冷地域 0.9	海岸から8km以内 0.9		
	二種地域 0.85	三種地盤 0.8	崖地(3m以上) 0.8	一級積雪寒冷地域 0.8	海岸から5km以内 0.8		
一種地域 0.8							

(裏面)

学校名

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、筋かいの位置は、他の壁と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 著しいさびについては、平面図、断面図に図示する。
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

